

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, May, 2008

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

5月の状況 (佐藤)

☆ C/2007 W1 (Boattini) (写真 a)

5月4日、筆者から OAA 彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML という。) に「昨日は午後から晴れ間が広がり自宅からも星がきれいでしたので郊外で増光している C/2007 W1 の観測に出かけました。天の川も久しぶりに見たのですが思っていたより透明度はよくありません。双眼鏡のバックランドが白っぽく見づらかったのですが、コマが大きく直ぐに確認できました。」と報告した。

続いて6日には、横浜市の吉田誠一氏から「群馬県・北軽井沢での彗星観測です。今年のGWは天候に恵まれませんでした。かろうじて、5月3日の夕方に30分ほど、雲の合間から観測できましたが、透明度はかなり悪いです。…C/2007 W1:ばかばかいです！ 透明度が良ければ、もっと巨大に見え、もっと明るい目測となったように思います。」との報告があった。

更に7日、千葉県船橋市の張替憲氏から「九十九里海岸での眼視観測です。太平洋から吹く強い南風に向かって成田から間断なく飛び立つ旅客機が観測を妨げます。…ほぼ1ヶ月ぶりに見る Boattini 彗星は相変わらず拡散状ですがコマが大きく成長していました。すぐ近くの C/2007 Q1 は薄雲に遮られて見えませんでした。」と6日の報告があった。

その後、急速に南下し国内での眼視観測の報告はない。6月には南半球で肉眼彗星となり、日本国内で再び捉えられるのは7月初旬明け方のおうし座だろう。

さて、5月始め oaa-comet ML に報告された高知市の村岡健治氏の軌道計算によると、近日点通過日まで2ヵ月を切り観測期間も5ヵ月を超え軌道精度が上がってきたが、原初軌道はまだマイナスとなっている。何れは若干のプラスとなると見て、この彗星は初めて降りてきた彗星かもしれないとのこと。

また、5月末になって C/2007 W1 に非重力運動が見られるようになってきたらしく、今後の観測に注目している。

眼視による観測が次のように報告されている。

## C/2007 W1 (Boattini)

	2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
May	3.50		8.5	10'	3	-	-	3/5	3/5	25×10cmB	佐藤裕久	
	3.52		7.8	9	3	-	-	-	-	36×40cmL	吉田誠一	
	6.46		7.3	12	3	-	-	2/5	3/5	49×32cmL	張替 憲	
	6.46		7.1	5	4	-	-	3/5	-	40×20cmL	上原貞治	円盤状
	6.48		7.9	9.5	3	-	-	2/5	2/5	25×10cmB	佐藤裕久	

## C/2006 Q1 (McNaught)

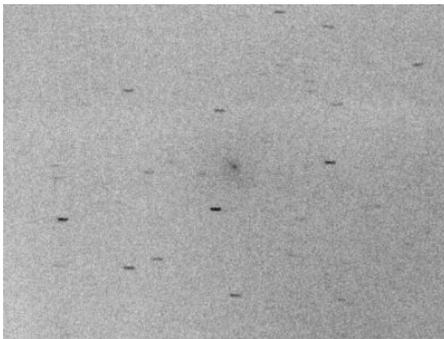
	2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
May	3.52		10.8	1.2'	4	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	

その他5月中に発見された彗星は次のとおり。

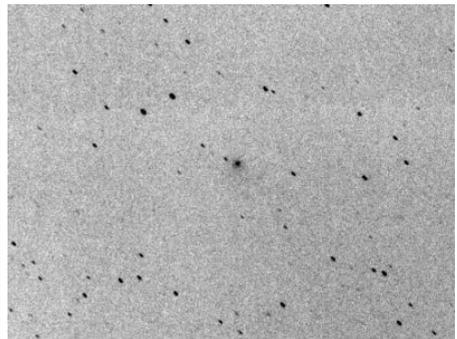
- ☆ C/2008 J1 (Boattini) 5月2.46日 UT、A. Boattini は、Catalina スカイサーベイの0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から約50"のコマと p. a. 235°に2'の扇型をした尾のある彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、浅見敦夫氏と坂本強氏 (美星スペースガードセンター 1.0-m f/3 反射、中野圭一氏により報告)ら幾人かの CCD 位置観測者によって彗星状であることが観測された。(IAUC 8940, 2008 May 3)
- ☆ P/2008 J2 (Beshore) 5月7日朝、筆者より oaa-comet ML に「Mt. Lemmon で明るい移動天体が発見され NEOCP に掲載されています。8JBD660 [2008 May 06.4 UT. R. A. = 17 06.2, Decl. = -13 34, V = 14.9] Updated May 6.70 UT [1 nighter]」と知らせ、8日朝、「New NEO 8JBD660 は新彗星 C/2008 J2 (Beshore) となりました。放物線軌道を計算しましたが、短周期彗星の可能性ががあります。」とコメントした。発見事情は、5月6.45日 UT、E. Beshore は、Mt. Lemmon の1.5-m 反射望遠鏡で得た画像から明るく直径約20"の集光し p. a. 270°にかすかな尾のある彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、N. Teamo (Tiki 天文台, Punaauia, 0.41-m f/8.0 Ritchey-Chretien, 報告 J. C. Pelle)ら幾人かの CCD 位置観測者によって彗星状であることが観測された。(IAUC 8941, 2008 May 7)
- ☆ P/2008 J3 (McNaught) 5月10.69日 UT、R. H. McNaught は、Siding Spring の0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から集光のある約6"~8"のコマと p. a. 240°方向に20°にわたって30"~40"の扇型の尾がある彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、A. C. Gilmore と P. M. Kilmartin (Mt. John 天文台, 1.0-m f/7.7 反射望遠鏡)ら幾人かの CCD 位置観測者によって観測された。(IAUC 8942, 2008 May 12)

- ☆ C/2008 J4 (McNaught) 5月10.79日 UT、R. H. McNaught は更に Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から p. a.  $240^\circ$  方向に伸びた非常に拡散したコマとおよそ p. a.  $250^\circ$  にカーブした  $20'' \sim 30''$  にわたって  $5'$  の拡がった扇型の尾がある彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、J. C. Pelle から、N. Teamo (Tiki 天文台, Punaauia, 0.41-m f/8.0 反射望遠鏡) によって得られた画像から p. a.  $240^\circ$  に  $7'$  の尾があるとの報告があった。(IAUC 8944, 2008 May 15)
- ☆ C/2008 J5 (Garradd) 5月13.73日 UT、G. J. Garradd は Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から  $40''$  のコマと南西に伸びた  $20''$  の広い尾のある彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、C. Jacques と E. Pimentel (Belo Horizonte, Minas Gerais, ブラジル, 0.30-m f/3 反射) から CCD 位置観測者によって観測された。(IAUC 8944, 2008 May 15)
- ☆ C/2008 J6 (Hill) 5月14.46日 UT、R. E. Hill は、Catalina スカイサーベイの 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から拡散しているが確りした核状の集光のあるコマと  $1'$  の扇型の尾のある彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、N. Teamo (Tiki 天文台, Punaauia, 0.41-m f/8.0, J. C. Pelle が測定、報告) や井狩康一氏 (滋賀県守山市, 0.25-m 反射, 中野主一氏により報告) ら幾人かの CCD 位置観測者によって観測された。(IAUC 8945, 2008 May 15)

その他比較的明るい彗星は、C/2006 Q1 (McNaught) (写真 b)、C/2006 OF<sub>2</sub> (Broughton)、C/2007 G1 (LINEAR)、C/2005 L3 (McNaught) などであった。



(写真 a) C/2007 W1 (Boattini) 2008, 05, 27  
19h 50.0m-56.5m (JST) exp. 30sx7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2006 Q1 (McNaught) 2008, 05, 27  
20h 10.0m-20.0m (JST) exp. 60sx7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏